

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 214 号	氏名	日 宇 健
学位審査委員	主 査 北 岡 隆 副 査 篠 原 一 之 副 査 小 澤 寛 樹		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>脳梗塞急性期の治療として行われる組織プラスミノゲンアクチベーター (tPA) 静注療法の合併症である頭蓋内出血や、神経細胞障害性を、tPA の脳血管関門 (BBB) に対する影響の点から検討しようというもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>Wistar ラットより脳毛細血管片を分離し、内皮細胞を2腔培養系で培養し、BBB の <i>in vitro</i> モデルを作成している。これにより正常状態、低酸素状態各々で、内腔側に tPA を投与し、経内皮電気抵抗、色素透過および免疫組織化学的手法で BBB の機能をみており、研究手法も妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、正常状態で tPA は transcellular transport を亢進させ、低酸素状態では更に paracellular transport も亢進させた。このことは生体内で tPA は非虚血下で一部 BBB を障害し、虚血下では BBB 障害を増悪させる危険性が示され、これらを阻害する脳保護薬の併用等で、脳梗塞急性期の tPA 投与がより効果的になる可能性が示唆され、今後の tPA による脳梗塞治療研究への寄与が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は脳梗塞治療の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			